



平成23年4月15日14時40分

INES 評価のレベル7への引き上げについて

日本原子力学会

4月12日に原子力安全・保安院が東京電力福島第一原子力発電所の事故に関する INES 評価（国際原子力事象評価尺度）をレベル5（暫定的な評価）からレベル7（同）に引き上げました。このニュースを受け、誤解あるいは心配されている方が多いと思われることから、以下に説明させていただきます。

- (1) 最近になって急に放射性物質の放出が増えたり、放射線レベルが高まったりした訳ではありません。福島第一原子力発電所の近傍の放射線レベルは概ね単調に減少を続けています。
- (2) 今回の事故に関するこれまでの知見を、INES という計りに乗せて計ってみたら、針が“5”ではなく“7”という値を指し示したという意味です。INES の尺度で最も厳しいレベル7を示したからといって、チェルノブイリ事故と同じということにはなりません。
- (3) 放出された放射性物質の量は、現時点ではチェルノブイリより1桁小さく、環境への影響は格段に少ないと考えられます。また、住民の方にも健康被害が出たチェルノブイリ事故に比べて、半径20km 圏の方々の避難が指示されており、放射線による健康被害は確認されていません。さらに遠方まで含めて放射線の量は常にモニターされ、野菜や水道水なども常にチェックされ、健康に影響を及ぼす恐れのないものだけが、皆様に届くよう十分な管理がされています。